

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2017 OCT.

第100号

特集
第100号
記念

そこは遺跡です! 発掘調査した遺跡の今



表紙: しばたし新発田市 あおた青田遺跡 (縄文時代晩期) 発掘調査状況 (2000年度)



『埋文にいがた』
第100号
記念特集

そこは遺跡です！ —発掘調査した遺跡の今—

平成のはじめころ、新潟県内では高速自動車道や国道バイパスの建設、住宅団地などの整備、リゾート開発など公共、民間の大規模な開発事業が進められ、これに伴って事業予定地での発掘調査を必要とする遺跡の数も年々増加してゆきました。これらの遺跡発掘調査は、埋蔵文化財の保護と開発事業の円滑な実施のため、適切かつ迅速に

行われることが求められました。これに応えるために新潟県埋蔵文化財調査事業団は平成4年4月1日に設立され、県から委託された公共事業等にかかる遺跡の発掘調査を行ってきました。

『埋文にいがた』は、事業団が行った発掘調査の概要を県民の皆様や関係各位に紹介し、埋蔵文化財に対する理解と関心を深めていただくための

事業団の発掘調査したおもな遺跡

原因	遺跡名	市町村	原因	遺跡名	市町村	原因	遺跡名	市町村	
日本海沿岸東北自動車道	下新保高田	村上市	磐越自動車道	上浦遺跡	新潟市	国道8号柏崎バイパス	天満IV遺跡	柏崎市	
	堂の前遺跡	村上市	北陸自動車道	獅子沢遺跡	阿賀野市	国道8号糸魚川東バイパス	岩倉遺跡	糸魚川市	
	桂木田遺跡	村上市		丸山遺跡	阿賀野市		伝極楽寺跡	糸魚川市	
	古渡路遺跡	村上市		釈迦堂遺跡	新潟市		田伏山崎遺跡	糸魚川市	
	谷地遺跡	村上市	北陸自動車道米スマートインターチェンジ	上道下西遺跡	三条市		山岸遺跡	糸魚川市	
	大館跡	村上市		関越自動車道	清水上遺跡		魚沼市	横マクリ遺跡	糸魚川市
	長割遺跡	村上市	上信越自動車道	金屋遺跡	南魚沼市	前波南遺跡	糸魚川市		
	東興屋遺跡	村上市		炭山遺跡	上越市	六反田南遺跡	糸魚川市		
	高山東遺跡	村上市		裏山遺跡	上越市	中瀧館跡	長岡市		
	八太郎遺跡	村上市		蟹沢遺跡	妙高市	国道8号糸魚川地区橋梁架替	宮花町	糸魚川市	
	宮の越遺跡	村上市		滝寺古窯跡群	上越市		国道17号南長岡拡幅	中瀧館跡	長岡市
	田屋遺跡	村上市		大貫古窯跡群	上越市		国道17号小千谷バイパス	三仏生遺跡	小千谷市
	松蔭東遺跡	村上市		海道遺跡	上越市			堂付遺跡	小千谷市
	窪田遺跡	村上市		蛇谷遺跡	上越市			百塚東D遺跡	小千谷市
	中部北遺跡	村上市		大塚遺跡	上越市	百塚西C遺跡		小千谷市	
	西部遺跡	村上市		堀向瓦窯跡	上越市	割目A遺跡		小千谷市	
	桜林遺跡	村上市	黒田古墳群	上越市	割目B遺跡	小千谷市			
	中曽根遺跡	村上市	細田遺跡	上越市	百塚東E遺跡	小千谷市			
	道端遺跡	村上市	下馬場遺跡	上越市	金塚遺跡	小千谷市			
	江添遺跡	胎内市	旧得法寺跡	妙高市	国道17号六日町バイパス	余川中道遺跡	南魚沼市		
	屋塚遺跡	胎内市	道灌遺跡	妙高市		北沖東遺跡	南魚沼市		
	道下遺跡	胎内市	向原遺跡	妙高市		長表東遺跡	南魚沼市		
	沢田遺跡	胎内市	前原遺跡	上越市	町上遺跡	魚沼市			
	土居下遺跡	胎内市	丸山遺跡	上越市	国道17号浦佐バイパス	大久保遺跡	南魚沼市		
	一杯田遺跡	胎内市	野林遺跡	上越市	国道17号湯沢交差点改良	川久保遺跡	湯沢町		
	野地遺跡	胎内市	上中島遺跡	上越市	国道18号妙高野尻バイパス	大堀遺跡	妙高市		
	六斗時遺跡	胎内市	八斗時原遺跡	上越市		中ノ沢遺跡	妙高市		
	反貫日遺跡	胎内市	中ノ原B・C遺跡	上越市	東浦遺跡	妙高市			
	西川内北遺跡	胎内市	大重沢B遺跡	上越市	国道18号視距改良工事	関川関所跡	妙高市		
	西川内南遺跡	胎内市	横引遺跡	上越市		上空野中丸	阿賀町		
	青田遺跡	新発田市	籠峰遺跡	上越市	国道49号揚川改良	上野東遺跡	阿賀町		
	野中土手付遺跡	新発田市	和泉A遺跡	上越市	現明獄遺跡	阿賀町			
	住吉遺跡	新発田市	柳平遺跡	妙高市	向大浦遺跡	阿賀町			
砂山中道下遺跡	新発田市	小野沢西遺跡	妙高市	大坂上道遺跡	阿賀町				
馬見坂遺跡	新発田市	大洞原C遺跡	妙高市	猿額遺跡	阿賀町				
松影A遺跡	新潟市	関川谷内A遺跡	妙高市	萩原遺跡	阿賀町				
正尺C遺跡	新潟市	関川谷内B遺跡	妙高市	国道49号野東バイパス	村前東A遺跡	阿賀野市			
正尺A遺跡	新潟市	狐屋敷遺跡	村上市		村前東B遺跡	阿賀野市			
上小島遺跡	阿賀町	蔵ノ坪遺跡	胎内市		柄目木遺跡	阿賀野市			
七堀道下遺跡	阿賀町	小船渡遺跡	新発田市		山口遺跡	阿賀野市			
北野遺跡	阿賀町	矢詰遺跡	新発田市		山口野中遺跡	阿賀野市			
牧ノ沢遺跡	阿賀町	近世新潟町跡	新潟市	境家遺跡	阿賀野市				
上城遺跡	阿賀町	浦廻遺跡	新潟市	新町遺跡	阿賀野市				
蟹沢遺跡	阿賀町	小坂居付遺跡	新潟市	石船戸東遺跡	阿賀野市				
堂田遺跡	阿賀町	坂井遺跡	見附市	蕪木遺跡	阿賀野市				
猿額遺跡	阿賀町	東原町遺跡	柏崎市	狐塚遺跡	阿賀野市				
中棚遺跡	阿賀町	宝田遺跡	柏崎市	庚塚遺跡	阿賀野市				
大坂上道遺跡	阿賀町	山崎遺跡	柏崎市	堀越館跡	阿賀野市				
上ノ平遺跡A地点	阿賀町	丘江遺跡	柏崎市	国道49号堀越歩道	鴨深中遺跡	阿賀野市			
上ノ平遺跡C地点	阿賀町	小峯遺跡	柏崎市		国道49号安田バイパス	大坪遺跡	阿賀野市		
吉ヶ沢遺跡B地点	阿賀町	箕輪遺跡	柏崎市	国道49号横雲バイパス	上郷遺跡	新潟市			
中峰遺跡	阿賀町	下沖北遺跡	柏崎市		川根谷内墓所遺跡	新潟市			
寺道上遺跡	新潟市	千古作遺跡	柏崎市		牛道遺跡	新潟市			
細池遺跡	新潟市	剣野沢遺跡	柏崎市		牛道遺跡	新潟市			
沖ノ羽遺跡	新潟市	香積寺沢遺跡	柏崎市		城所道下遺跡	新潟市			
江内遺跡	新潟市			武左衛門裏遺跡	新潟市				
				大蔵遺跡	新潟市				

広報誌として平成4年10月30日に創刊されました。それから20年余りが経過し、本号で100号を迎えます。これを記念して調査成果を概観します。

昔からそこが遺跡だと知られている所もありますが、工事予定地には未知の遺跡がある可能性があります。工事が決まると、そこに遺跡があるかどうかを探します。まずは分布調査です。遺跡には今でも昔の人が使った土器や石器などの遺物が落ちていたり、人の手によって地形が改変されたりしているので、それを手掛かりに工事予定地を歩いて遺跡を探します。次に、遺跡の大まかな様子を知るために一部分を発掘する試掘・確認調査を行います。この結果をもとに調査計画をたて、本発掘調査を行います。

下の図は平成4～28年度に事業団が本発掘調査を行ったおもな遺跡です。遺跡名や所在地はページ下の図・表を参照してください。

平成28年度までに、試掘・確認調査506回、本発掘調査350回（209遺跡）を手掛けてきました。その結果、旧石器時代から江戸時代まで多様な遺跡が発見され、新潟県の歴史の解明と県土の発展に大きく寄与できました。

次ページからは高速道路や新幹線など事業毎に調査成果をまとめます。交通機関をご利用の際に、そこに遺跡が存在したことを知っていただければ幸いです。

原因	遺跡名	市町村
国道49号亀田バイパス	西郷遺跡	新潟市
国道113号鷹ノ巣道路	カヤマチ遺跡	関川村
国道113号荒川道路	道端遺跡Ⅳ	村上市
国道116号富永交差点改良	谷内A遺跡	燕市
国道116号和島バイパス	大武遺跡	長岡市
	奈良崎遺跡	長岡市
	姥ヶ入製鉄遺跡	長岡市
	姥ヶ入南遺跡	長岡市
	立野大谷製鉄遺跡	長岡市
国道117号線一次改築	屋敷田Ⅲ遺跡	津南町
国道253号八箇峠道路	堅木遺跡	南魚沼市
国道253号上越三和道路	金屋遺跡	南魚沼市
	二反割遺跡	上越市
	堂古遺跡	上越市
	下割遺跡	上越市
	清水田遺跡	上越市
	延命寺遺跡	上越市
	三角田遺跡	上越市
	狐宮遺跡	上越市
	屋敷割付遺跡	上越市
	北陸新幹線	諏訪前遺跡
荒町南新田遺跡		上越市
北新田遺跡		上越市
北前田遺跡		上越市
野畦遺跡		上越市
中田原遺跡		上越市
岩ノ原遺跡		上越市
五反田遺跡		上越市
仲田遺跡		上越市
峪ノ上遺跡		上越市
台の上遺跡		上越市
家ノ前遺跡		上越市
用言寺遺跡		上越市
平遺跡		糸魚川市
角地田遺跡		糸魚川市
須沢角地遺跡		糸魚川市
大角地遺跡		糸魚川市
寺地遺跡		糸魚川市
深谷遺跡		糸魚川市
山岸遺跡		糸魚川市
田伏山崎遺跡		糸魚川市
六反田南遺跡		糸魚川市
南押上遺跡	糸魚川市	
姫御前遺跡	糸魚川市	
竹花遺跡	糸魚川市	
中ノ山遺跡	上越市	
宮平遺跡	上越市	
郷本川河川改修	奈良崎遺跡	長岡市
橿形無線中継所	高畑城跡	胎内市
県営ほ場整備事業	平田遺跡	佐渡市
	天王前遺跡	村上市
	有明の場遺跡	村上市
	石川遺跡	村上市
	新保遺跡	上越市



日本海沿岸東北自動車道

新潟市から村上市へ至る海岸近くの平野を試掘調査したことで、これまで遺跡がないと思われていた低湿地で遺跡が発見されました。時代は縄文時代から江戸時代までと幅広く、遺跡の性格も集落、水田などの生産域、祭祀場など多様です。遺跡が密集していることも、当地域の開発が活発に行われていたことを物語ります。遺物は木製品が豊富に出土したことが特筆されます。

青田遺跡では縄文時代晩期の川辺の集落で丸木舟や釜・漆製品が出土し、当時の植物資源の利用方法を知ることができました。周辺には同時期の遺跡が点在し、この時期に開発が活発だったと推



縄文時代晩期の丸木舟（青田遺跡）

定されます。弥生時代中期～後期の山元遺跡では日本海側最北の高地性環濠集落が発見され、貴重な遺跡として国史跡に指定され保存されています。平安時代では西部遺跡の工房群で出土した漆の落とし蓋に転用されていた役所の使用済み文書（漆紙文書）に越後国府に出仕するための役人の休暇願が書かれていました。古代の越後国や磐船郡などの様子を直接うかがい知ることができる重要な史料です。



漆紙文書（西部遺跡）



古墳時代の水田（土居下遺跡）

磐越自動車道

新潟市から阿賀町へ至る阿賀野川沿いを調査しました。新潟平野から阿賀野川の河岸段丘上へと抜けるため、遺跡の立地は多様です。平野部では古代から中世の集落や水田、河岸段丘上では縄文時代を中心に旧石器時代から古代の集落が分布します。

上ノ平遺跡と吉ヶ沢遺跡は旧石器時代のナイフ形石器などが出土しました。北野遺跡では縄文時代前期、中期～後期の集落が検出されました。

前期の遺跡は洪水堆積層に厚く覆われていたため、保存状態が良好でした。大坂上道遺跡ではアスファルト入



旧石器時代の石器
（吉ヶ沢遺跡B地点）

りの縄文土器が出土しました。アスファルトは新潟・秋田などに産地が限定されるので、貴重品として持ち運ばれたのでしよう。



アスファルトの入った縄文土器
（大坂上道遺跡）



縄文時代前期の竪穴建物（北野遺跡）

上信越自動車道

上信越自動車道は高田平野西方の丘陵・山地を貫き長野県境まで建設されました。これに伴い調査した遺跡は、旧石器時代から江戸時代に及び、丘陵・山地という地形を存分に活用している点が特徴です。縄文時代には丘陵縁辺に狩猟対象となる動物を追い込むための陥し穴を掘った蛇谷遺跡、下馬場遺跡、野林遺跡などがあります。日本海や頸城平野を一望できる丘陵上の裏山遺跡には弥生時代の高地性環濠集落が築かれていました。近くの下馬場遺跡では管玉作りが行われてお



平安時代の須恵器窯（滝寺古窯跡）

り、鉄製工具が出土しました。頸城平野は県内最大の古墳集中地帯であり、黒田古墳群はその1つです。古墳時代中期の初期群集墳に位置付けられます。斜面を利用して窯を築いた例も多く、平安時代の滝寺古窯跡群・大貫古窯跡群の須恵器窯、江戸時代の高田城の瓦を焼いた堀向瓦窯跡の調査で古代以降の焼き物生産が詳しく分かりました。



弥生時代の玉作りと鉄製品
(下馬場遺跡)



黒田古墳群

北陸新幹線

北陸新幹線は上越市から糸魚川市の沖積地を通過し、富山県へ至ります。沖積地に立地する遺跡では、農耕具や畦畔の地盤沈下防止のための部材などの木製品が良好な状態で出土しました。また、糸魚川という土地柄、原産のヒスイや蛇紋岩を玉や磨製石斧に加工した遺跡の発見が特筆されます。

縄文時代では、世界最古のヒスイの使用例とされる敲石が出土した大角地遺跡、蛇紋岩製磨製石

斧を大量生産していた六反田南遺跡、古墳時代では玉作りを行った南押上遺跡があります。

高田平野西部の丘陵沿いは越後国府周辺の重要な地域であったため、古代の遺跡が数多く存在します。岩ノ原遺跡は「石井庄」「石庄」と書かれた墨書土器から、「東大寺領石井荘」の荘園関連遺跡であったことが明らかとなりました。糸魚川市の山岸遺跡では鎌倉時代の沼川郷地頭や越後守護を務めた北条一門の名越氏関連の館を検出しました。館と庭園が広く調査された稀少例です。

(土橋 由理子)



玉の完成品と未製品・工具類（南押上遺跡）



ヒスイ製敲石(大角地遺跡)



「石井庄」墨書土器
(岩ノ原遺跡)



埋文
コラム

弥生時代の玉作り

弥生時代の代表的な装身具に石製の^{まがたま}勾玉と^{くだたま}管玉があります。その材料は希少ですが、新潟県には良質な石材の産地がありました。勾玉のヒスイは糸魚川市、管玉の赤や緑の石は佐渡が有名です。石材に恵まれた弥生人は、縄文時代に続いて盛んに玉作りを行っていました。長岡市大武遺跡ではヒスイの勾玉を作っていました。弥生時代の遺跡としては国内最多の21kg以上のヒスイがあります。勾玉はヒスイに石製^す擦り切り具で溝を入れ、一定の形に打ち割ります。それを^{といし}砥石で磨いてD字状に整え、腹部に窪みを付けて頭部に穴を開けます。大武遺跡の完成品の大きさは長さ9.4mmから14.5mmとずいぶん小さいものですが、この時期の勾玉の大きさは10mmから20mmくらいが一般的です。大武遺跡の勾玉工程品は、当センターで展示しています。

弥生時代に登場する細形管玉は、佐渡の^{くになか}国中平野が国内最大級の産地でした。新穂玉作^{にいぼたまつくり}遺跡は

県史跡に指定され、収集された玉作りの遺物は「佐渡新穂遺跡出土品」として国重要文化財になっています。管玉は赤や緑のほかに白色もありますが、なかでも佐渡の赤玉と呼ばれる上質な石を用いた赤い管玉は屈指のものです。平田遺跡などの発掘調査で玉作りの様子が明らかになってきました。佐渡や越後で玉作りが始まった中期の頃は、原石の打ち割りも最終の^{せんこう}穿孔もすべて石の工具を使っています。佐渡市小谷地遺跡管玉のX線写真は、管玉の穿孔途中に石製ドリルが折れ管玉内に残ったものです。平田遺跡の管玉と爪楊枝を見比べると、その細さと精巧に孔を開ける技には驚くばかりです。勾玉も管玉も地元消費というより日本各地に運ばれたと見られます。

玉生産の動機や製作技術、流通範囲と使われ方など探求すべき課題は多く残されています。

(田海 義正)



大武遺跡の勾玉工程品 D字状



大武遺跡の勾玉工程品 頭部に穴あけ



平田遺跡の管玉工程品 原石から完成品
(佐渡市教育委員会蔵)



平田遺跡の管玉と爪楊枝
(佐渡市教育委員会蔵)



小谷地遺跡の管玉X線写真
(佐渡市教育委員会蔵)



埋文
インフォ
メーション

新潟県埋蔵文化財センター
秋季企画展
「砂丘と平野の暮らし」

阿賀野川以北の聖籠・
新発田地域の海岸には10列

の新砂丘が形成されています。内陸側から2列目の新砂丘I-2にある新発田市馬見坂遺跡では縄

文時代前期後葉(約6,000年前)の土器が見つっています。一方、内陸側の越後平野は紫雲寺潟(塩津潟)などの潟湖と大小の河川がある湿地帯でした。縄文時代晩期(約2,500年前)には平野にも大きなムラが築られました。その後、弥生時代から室町時代まで砂丘と平野は歴史の舞台となります。新発田市と聖籠町で発掘調査を行った遺跡の出土品から砂丘と平野の歴史を辿ります。

◆ 会期 平成30年3月25日(日)まで

◆ 観覧料 無料

◆ おもな展示品



縄文時代晩期の土器

(新発田市 青田遺跡)【県指定】

左から渦巻文のある壺、漆塗りに使った鉢、煮炊き用の甕。



古墳時代の土器

(聖籠町 山三賀Ⅱ遺跡)

竪穴建物からまとまって出土したもの。中央手前が小型器台、ほかは小型壺。マツリなどに使用された。



平安時代の墨書土器

(新発田市 野中土手付遺跡)

墨で文字や記号などが記された須恵器。「丈マ人万」という人名や、「王」などが書かれている。



鎌倉時代の青磁の碗

(新発田市 住吉遺跡)

中国から輸入された陶磁器で、当時の高級品。有力者の存在を裏付けるもの。



鎌倉～室町時代の木製品

(新発田市 小船渡遺跡)

井戸から出土した木製品。柄杓や下駄などの生活用品や、マツリに使用された斎申がある。



室町時代の呪符と卒塔婆

(新発田市 砂山中道下遺跡)

建物群と火葬場を区切る溝などから出土したもの。中央は呪符「急々如律令」、右は卒塔婆「南无大日如来」。

◆ 関連講演会を開催します。ぜひご参加ください。(定員80名・要申込)

「青田遺跡の時代－縄文社会を探る－」

日時：11月12日(日) 13:30～15:30

講師：荒川 隆史(当センター)

「加地庄と佐々木氏・中条氏」

日時：12月10日(日) 13:30～15:30

講師：前嶋 敏氏(新潟県立歴史博物館)

「山三賀Ⅱ遺跡の時代－律令期の阿賀北地域－」

日時：2月18日(日) 13:30～15:30

講師：春日 真実(当センター)



県内の
遺跡・遺物
98

耳取遺跡

(平成27年10月7日 国指定史跡名勝天然記念物(史跡))

所在地：見附市熱田町字岩沢・名木野町字岩沢 管理者：見附市

耳取遺跡は、新潟県中央部の見附市にあり、新潟平野の東側に連なる東山丘陵から西に延びる尾根上の平坦な土地に立地しています。標高は約76mです。縄文時代中期中ごろ、後期前半、晩期後半の3時期にわたって営まれた集落遺跡です。

明治時代から縄文土器や石器が地表から大量に採集される遺跡として知られており、火焰土器を発見した近藤篤三郎やその父勘治郎、中村孝三郎などの著名な研究者がひんぱんに訪れていました。発掘調査は見附市教育委員会が主体となって、昭和42年に学術調査、昭和62年に範囲確認調査、平成23～26年と国史跡指定後の平成28年に遺跡の保存・活用を目的とした内容確認調査が行われました。

発掘調査の結果、遺跡には南北60m東西70mの馬蹄形となる中期集落、南北175m東西150mの中央に広場を持つ環状の後期集落、南北80m東西70mの環状の晩期集落があることがわかりました。中期集落では石囲炉などのある竪穴建物13棟などが調査されました。また、長さ10.6cmの県内最大のヒスイ大珠が出土しました。後期集落では

柱が円形にめぐる建物24棟や長方形の掘立柱建物42棟などが調査されました。また、中央広場の南側では人骨が散乱して出土しており、墓域があった可能性があります。晩期集落では



後期集落（調査区左側の白線の少ない範囲が広場）



晩期後葉の大きな柱穴を持つ建物跡

亀甲形の掘立柱建物が多数調査され、中には直径1.3mの大きな柱穴を持つものもありました。

これらの調査結果から、耳取遺跡は縄文時代の3時期の集落が重なっていて、それらの全体像をはっきりと知ることのできる非常に貴重な遺跡であることがわかりました。いずれの集落も見附市周辺地域の核となるムラだったと考えられます。中でも後期集落は北陸地方最大規模の特に大きなムラです。また、遺跡は中期中ごろから晩期終末まで約3,000年もの間存続しており、これほど長期間続いた縄文集落は北陸地方全域を見ても耳取遺跡と国史跡の石川県真脇遺跡しか知られていません。このように耳取遺跡は非常に貴重な縄文時代の集落遺跡と考えられることから、平成27年に国史跡に指定されました。（沢田 敦）

参考資料

見附市教育委員会2015『耳取遺跡』

遺跡の情報は見附市役所ホームページのみつけ伝承館の耳取遺跡のページからご覧いただけます。



埋文にいがた 第100号

平成29年10月31日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL:(0250)25-3981 FAX:(0250)25-3986

E-mail: niigata@maibun.net URL: http://www.maibun.net/

